

環境中長期目標と実績

目標項目	2025年 目標	2030年 目標	実績と評価				
			2021年 達成度	2022年 達成度	2023年 全体評価	2023年 全体評価	2023年概況と今後の対策
容器・包装素材のプラスチック： 植物由来／リサイクルプラスチック使用比率向上*1*2	25%	50%	5%	6%	14%	○	ハブラシ、歯間ブラシのパッケージに用いる包装材への再生プラスチック採用に加え、2023年からは、サンスター容器・包装材で最もプラスチック使用量の多い洗口液のボトルへの植物由来プラスチック採用を開始したことで、大幅な進展が見られました。今後、更に採用品種の拡大を図り、石油由来バージンプラスチックの使用量削減を進めます。
使い終わった容器・包装材： リサイクル／リユース可能な材料*3比率向上*1*2	55%	100%	73%	68%	75%	◎	接着剤・シーリング材の金属缶が高実績に反映されています。一方、ハミガキ、ハブラシなどでは品質・安全性確保や、使い勝手向上のため異素材が複合化された容器が多く、今後は品質を確保しながら廃棄時に素材を分別しやすい容器の開発を進めます。
容器・包装材に使う紙： FSC®*5等の森林認証紙比率向上*1*4	100%	100%	53%	70%	71%	△	製品の個装箱、ハブラシ、歯間ブラシのパッケージなどに使う紙を森林認証紙に順次切り替えており、日本での切り替えはほぼ完了しました。今後はグローバル各拠点での森林認証紙の採用を進めます。
製品につかうパーム油： RSPO*6等の持続可能認証比率向上*7	50%	100%	9%	14%	25%	△	2021年にRSPOに加盟し、洗口液の原料であるグリセリンに用いるパーム油向けにRSPO認証パーム油の購入を開始。採用率向上、対象製品分野の拡大を進めています。
自社工場・事業所で使う電力： 再生可能電力(CO2フリー電力)比率向上*8	65%	100%	26%	27%	24%	×	ドイツのハブラシ・歯間ブラシ工場とスイスグローバル本社は100%再生可能電力で稼働中。太陽光発電パネルは、ドイツのハブラシ・歯間ブラシ工場、山梨の洗口液工場に加え、2023年にドイツの接着剤工場、シンガポールの接着剤・金属部品工場にも新設。データ算定拠点増加や電力調達事情悪化の影響でグループ全体では後退。
自社工場でする水： 生産量当たりの水使用量削減(kgあたり)*9*10	-10%	-20%	1%	9%	-23%	◎	生産工程見直しによる水使用量削減の成果も出ている一方、温暖化に起因する水使用の増加も見られます。水使用実態の更なる分析を進め、削減対策を進めます。
自社工場でするCO2： 総排出量削減(Scope1+2)*8*9	-50%	-85%	-22%	-21%	-13%	×	再生可能電力調達率の低下、データ収集算定拠点の増加、排出係数見直しなどでCO2排出量が去年より増加。今後は、再生可能電力比率向上、省エネ設備導入、工場設備の効率的な運用などを進めることで、CO2排出削減を進めます。

*集計範囲：グループグローバル自社工場のデータを統合。消費財米国工場は電力、水、CO2のみ、ツバメックス社は電力、CO2のみを集計。

消費財事業＝オーラルケア製品、化粧品、健康食品などの生活者向け製品関連事業

生産財事業＝自動車・建築・電子機器用接着剤・シーリング材、バイク・自動車用金属部品などの産業用製品関連事業

*全体評価の判定基準：◎計画以上、○ほぼ計画通り進捗、△計画未達だが進展あり、×現状より悪化

*1消費財事業の欧州調達分を含む、*2製品容器・個装包装材分（日本消費財及び生産財は外注先調達材料を除く）

*3リサイクル／リユース可能な材料＝製品使用後に容易に素材別に分離可能としたもの、*4個装包装材分（日本消費財、生産財は外注先調達材料除く）

*5FSC®（Forest Stewardship Council®、森林管理協議会）＝責任ある森林管理を世界に普及させるための独立した非営利団体で、森を守る国際的な森林認証制度を運営。

*6RSPO（Roundtable on Sustainable Palm Oil）＝持続可能なパーム油のための円卓会議。当社RSPO加盟進捗状況 <https://rspo.org/members/12085>

*7自社調達分、2021年度はマスバランス品、*8消費財の米国生産拠点、日本・米州・欧州自社オフィス含む

*9基準年：消費財事業2020年、生産財事業2019年（2020年顧客企業群が大幅減産年となったため）、*10生産財事業・山梨工場の地下水含まず